

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく)

資料1-2

令和 年 月 日

協議会名: 日立市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①運行事業者 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む) |
|-----------------------|--|--|--|---|--|
| 特定非営利活動法人助け 合いなかさと | デマンド型交通「なかさと号」 営業区域: 日立市中里地区(東 河内町、中深荻町、下深荻町、 入四間町) 運行日: 月曜～金曜(原則) 運行時間帯: 8時30分発～14 時30分発 運賃: 中里地区内運行 1外出当たり 300円 | ・平成28年に策定した日立市 地域公共交通網形成計画及 び、平成31年に策定した日立 市公共交通利便増進実施計画 に基づき各種施策を実施した。 ・高齢者の地区内の移動手段 を確保し、他の交通事業者との 調整を図りながら、高齢者運転 免許自主返納者への回数券交 付などの利用者や、交通弱者 に対する移動手段確保、利便 性の向上のための施策を図っ た。 | A ・事業が計画に位置付けら れたとおり、適切に実施さ れた。 | B ○ 目標 令和2年度の1日当たり 利用者数に対し110% ○ 実績値 1日あたりの乗車人数: 14.4人 (R2年度比105.1%、対 前年度比97.3%) ○ 考察等 ・なかさと号は、地区内の交 流センターや運動場での地 域イベントに参加する方が 多く利用しているが、人口 減少等により利用者数は減 少傾向にあり、基準年度 に対しての目標値は達成で きなかった。 | ・引き続き、中里地区の高齢者 や免許を持たない方の移動手 段を確保するとともに、高齢者 の運転免許自主返納者に対す るなかさと号利用回数券の交 付を推進する。 ・運行区域内の医院・商店など が年々閉業しており、区域内に ある生活利便施設のみでは、 地域住民の生活に支障をきた していることから、路線バス等 との連携により、区域外施設と のアクセス向上を図り、高齢者 の安心・安全な移動手段の維 持・確保を図っていく。 |

| | | | | | |
|----------|--|---|---|---|---|
| 茨城交通株式会社 | <p>系統: 日立駅中央口～ケースデンキ日立店前～平和台霊園線 (11.2km)</p> <p>運行回数: (改正前)21回／日 (改正後)29回／日</p> <p>運賃: 200円～570円</p> | <p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。</p> <p>・地域住民、交通事業者とパートナーシップ協定を締結して、乗車促進活動に取り組んだ。</p> <p>・乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を支援し、継続的な活動に協力した。</p> | <p>A</p> <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> | <p>B</p> <p>○ 目標 令和2年度の1便当たり利用者数に対し110%</p> <p>○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 24.6人 (R2年度比107.4%、対前年度比106.5%)</p> <p>○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通退勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される。</p> <p>・沿線学校・企業等への移動手段として、幹線の交通軸と接続する交通ネットワークを確保できた。</p> | <p>・利便性の高い市内南北路線維持のため、住民主体の利用促進活動を今後も継続する。</p> <p>・地域住民と協働し、路線バスの乗車促進を行うほか、沿線にある企業等に対する利用促進活動を実施していく。</p> |
| | <p>系統: おさかなセンター～サンピア日立～大甕駅西口(学園前)線 (3.3km)</p> <p>運行回数: 3回／日</p> <p>運賃: 200円～240円</p> | <p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。</p> <p>・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。</p> <p>・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。</p> <p>・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p> | <p>A</p> <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> | <p>B</p> <p>○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110%</p> <p>○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 16.2人 R2年度比: 145.9%、対前年度比154.3%)</p> <p>○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられた一方で、沿線の学校等で対面での通常授業が再開したほか、外出自粛等の行動制限が無くなったことから、目標達成に至ったと想定される。</p> | <p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p> |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|------------------------------------|---|--|---|
| | <p>おさかなセンター～ サンピア日立～多賀駅前線 (8.7)km 運行回数:44回／日 運賃:200円～480円</p> | <p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p> | A | <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> | B | <p>○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110%。 ○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 21.4人 (R2年度比119.6%、対前年度比108.6%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられた一方で、沿線の学校等で対面での通常授業が再開したほか、外出自粛等の行動制限が無くなったことから、目標達成に至ったと想定される。</p> | <p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p> |
| | <p>おさかなセンター～多賀駅前線(8.3km) 運行回数:11回／日 運賃:200円～480円</p> | <p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p> | A | <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> | B | <p>○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110% ○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 27.7人 (R2年度比107.4%、対前年度比107.4%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通退勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される。</p> | <p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p> |

| | | | | | | | |
|--|---|---|---|------------------------------------|---|---|---|
| | <p>大甕駅西口(学園前)線～多賀駅前線(5.4km) 運行回数:43回／日 運賃:200円～350円</p> | <p>・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。</p> | A | <p>・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> | B | <p>○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110% ○ 実績値 1便あたりの乗車人数:11.9人 (R2年度比96.0%、対前年度比92.2%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通通勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される。</p> | <p>・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。</p> |
|--|---|---|---|------------------------------------|---|---|---|

| | |
|--|----------------------------|
| <p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p> | <p>(協議会による一次評価の際は記入不要)</p> |
|--|----------------------------|